

看護管理者が考える医療安全体制と感染管理

青井久江[†]第76回国立病院総合医学会
2022年10月8日 於 熊本

IRYO Vol. 78 No. 2 (87-90) 2024

要旨

新型コロナウイルス感染症のパンデミック発祥から3年、何度目かの医療崩壊といわれる時期を経験し、国立医療に求められる医療安全管理体制を考え直す時期に来ている。とくに感染管理体制においては国立医療の中では依然として医療安全管理の一部という考え方が根強い。多くの施設において医療安全管理係長は看護師長を配置しているにもかかわらず、感染管理担当者には感染管理認定看護師の研修を終えた副看護師長を配置している。感染管理にはかなり専門的な知識が必要であり、看護師長職の中にその研修修了者が少ないことが要因の一つにある。しかし、今回のようなパンデミックの状況下においては専門的な知識や指導だけでなく管理的な視点で施設の運営維持が考えられる人材が望まれる。それを考えると感染管理部門に看護師長職の配置は必然である。看護管理者の立場としては少なくとも感染症重点医療機関などの役割を行う施設の感染管理者は看護師長職を配置し、医療安全と対等な立場での体制づくりが必要であると考えられる。

キーワード 感染管理認定看護師、看護管理者、医療安全管理体制

病院紹介

相模原病院は458床、診療科29科の急性期病院である。所在地である神奈川県相模原市は人口72.6万人の中央区・南区・緑区の3つの区を持つ政令指定都市である。東京都に近く人口流入の多い中堅都市だが市立病院がないため相模原病院は南区の医療の中心として市民に頼りにされている。また、地域支援病院であり相模原市の2次救急を担いながらもリウマチ・アレルギーの基幹病院の役割も果たしている。

今回の新型コロナウイルス感染症の度重なる感染爆発において、相模原病院の方針は一般診療をできる限り維持継続しつつ、可能な限り新型コロナウイルス感染者を収容することであった。そのためにはどのような方法で感染者の受け入れを行っていくのがよいか病床運営が常に課題であった。

新型コロナウイルス感染者の受け入れ状況

相模原病院の感染者受け入れ状況としては新型コロナウイルスの流行の兆しが見え始めた2020年2

国立病院機構相模原病院 看護部 †看護師

著者連絡先：青井久江 国立病院機構相模原病院 看護部長 〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台18-1

e-mail：aoi.hisae.ty@mail.hosp.go.jp

(2023年2月14日受付 2023年4月14日受理)

What is the Medical Safety Management System Required for National Medical Care?: Medical Safety System and Infection Control Considered by Director of Nursing

Hisae Aoi NHO Sagami-hara Hospital

(Received Feb. 14, 2023, Accepted Apr. 14, 2023)

Key Words : Infection Control Nurse, Director of Nursing, medical safety management system